

# かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 6 No 7

60号

平成10年 7月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

## 乳幼児突然死症候群について

院長

最近話題になっているので、皆さんSIDSという言葉は御存知かと思います。SIDSというのは乳幼児突然死症候群のことです。今回はこの病気について考えてみたいと思います。

新聞で「乳幼児突然死症候群、うつ伏せ寝、喫煙、ミルクが危険」という記事を見て、どきっとした方も多いと思います。さて乳幼児突然死症候群とはいったいどんな病気なのでしょう。突然死という言葉が示しているように、元気だった赤ちゃんが大きな前触れもなく突然亡くなってしまふものです。SIDSのはっきりした原因は不明ですが、睡眠中に呼吸が止まり普通なら苦しくなって息を吹き返すはずが、何らかの異常によりそのまま呼吸することなく死亡してしまうと考えられています。呼吸というのは呼吸中枢でコントロールされていますが、そのコントロールが出来なくなってしまうということです。もちろん突然死には様々な原因があるのですが（心臓病など）、解剖によってもその原因が明らかにならないものがSIDSと呼ばれています。嘔吐したものを気管に詰まらせて亡くなるということがありますが、このような状況の多くはSIDSの可能性がありますが、また乳幼児という言葉から分かるようにほとんどは1~2才（国によって定義が異なります）で、ピークは4~6ヶ月にあり、8割は6ヶ月まで起こります。頻度は国によって異なりますが、日本は欧米に比較して少なく、約2,000人に一人ぐらいの頻度です。仙台市の出生数は年間16,000人ぐらいですから、8人ぐらいが亡くなっている可能性があるわけです。

先程の新聞記事に戻りますが、原因は明らかではないのですが、危険因子（誘因）というのがいくつかあげられています。仰向け寝よりうつ伏せ寝、母乳栄養より人工栄養、親の非喫煙より喫煙者のこどもに多いということですが、また環境の温度が高い（暖めすぎ）のも誘因として考えられています。でもあくまでも誘因であって、何倍もの

倍率でSIDSの頻度が高くなるというわけではありません。確かに外国でうつ伏せ寝をやるキャンペーンを行い、30%程度減少したという事実もあります。しかし考えてみれば、うつ伏せ寝で母乳で育ちお母さんがたばこを吸うから

とってSIDSになるものではなく、仰向け寝で母乳で育ちお母さんがたばこを吸わないからといってSIDSにならないわけでもありません。誘因は原因ではなく、何らかの関係があるだろうということではしかありません。

もう一つ強調しておきたいのはこれは事故ではなく、病気なのだということです。誘因だからといってミルクをやめるわけにはいきません。深刻に考えてしまうと親の責任という事になってしまう可能性があります。責任ではなく病気なのです。このことで問題になるのは事故などとして取り扱われ、こどもを失って悲しむ親にもう一つの大きな問題を背負わせてしまう可能性があるのです。この病気を理解していない（最近では理解されるようになってきました）いろいろな人々のため、親御さんたちは過失などという言葉で責められることになってしまうのです。実際につらい体験をした親御さんたち達の立場を守る必要性（精神的ケア）が、強調されています。

誘因を出来るだけ避ける努力は必要ですが、完全な方法はないということです。頻度は低いものですからむやみに心配の必要はないので、今までと変わらなくていいのです。うつ伏せ寝は避け、本人や周囲の人のためにも禁煙、暖めすぎない、添い寝でお母さんは眠らないなどに気を付けて下さい。もちろん子育てすべてに言えることですが、こどもから目を離さないということは基本です。



7月の  
おしらせ

・1才6ヶ月健診休診  
7月14日（火）  
14:00~16:30まで休診。  
健診予防接種はありません。

・夏季休暇  
未定ですが、8月中旬になります。  
掲示等で、お知らせいたします。

## 受付の宮腰（旧姓加藤）君が退職となりました

5年間という長い期間、本当にご苦勞様でした。結婚により退職することになりました。早く元気な赤ちゃんを！！

この度、退職することになりました。5年間という長いようで短い間の中、たくさんの人に巡り合うことができ、そしていろんなことを学びました。こども達の成長ぶりには、毎日目を見張ることばかりでした。それがとてもうれしくて、お母さん方、そしてこども達に感謝します。本当にお世話になりました。

みやこし

## 読者の広場

先月載せられなかった投書があるので御紹介します。匿名の方からです。出来れば名のって欲しいものです。「いつも子供達がお世話になっております。通勤族で、何ヶ所かの小児科を受診しておりますが、先生の詳しく分かりやすい説明には、毎回新しい発見があり、また病気に対する知識も深められ、ありがたく思っています。さて今回お便りしたのは、他の小児科で見られない不思議というか疑問点があったので、それはどうして?。もっと簡略化できないのかと思ったことがあったからです。その1. [なぜ受付の時点で体温計を渡してくれないの?](#)。(中略)その2. [なぜ何回も“どうしましたか”と聞かれるの?](#)。(中略)その3. [なぜ健診や予防接種は予約が必要なの?](#)。(中略)その4. [なぜ受付の人は、笑顔や元気な声がないの?](#)。その5. [4月号のクリニックNEWSにもあったのですが、下駄箱欲しいです。](#)(中略)



たくさん書いてしまいましたが、1つの意見として読んで改善して下さることを期待しております。」それでは一つ一つ答えていきましょう。受付の時点で体温計を渡さない理由は特にありません。混雑しているときには整理のため、確認して渡すようにしています。どっと渡されると、カルテの記載を間違えてしまうこともあります。“どうしましたか”かと何回も聞かれることについては、待合室で聞く理由は重症な子どもや感染症の子どもを早く見つけることです。待合室の中に、水ぼうそうの子どもが混じっているのは困ります。その後は必要ないと小生も思っています。改善するように指導しました。中待ちで待っているときに看護婦がお母さん達のコミュニケーションを取ろうとして、声かけしていたのだと思います。予防接種や健診の予約ですが、これは当たり前だと思っています。予防接種の準備は数を把握していないと困ります。ましてB型肝炎の予防接種に突然来られてもワクチンが無いという事もあります。健診と予防接種を別の時間にという要望も書いてありましたが、これも無理でしょう。今もぎりぎりで行っているので、別になると病気の診療時間が短くなります。これではもっとクレームが来るでしょう。受付の対応については、以前から指摘があるので、指導しているところです。下駄箱は準備しました。上手に使うようにして下さい。

先月の「ちょっといい話」の千咲子ちゃんのお母さんから、「先日は大変お世話になりました。木曜日は午後休診なのでお昼過ぎに伺いまして申し訳ありませんでした。初めてのひきつけで、このまま動かなくなったらどうしようと思っておりましたので、すぐ診ていただけで安心しました。その上電話で、その後の様子を聞いていただきまして、またひきつけを起こすんじゃないかという不安もありましたので、先生に“大丈夫だね。”とっていただき安心できました。本当にありがたかったです。また病院に向かうときも見ず知らずの方に車に乗せていただいたり、本当に人はささえられていっているんだなあ、しみじみ実感した一日でした。お陰様で娘は元気に(暑かったり寒かったりしているので少し咳をしていますが)過ごしています。またお世話になりますが、よろしく願います。本当にありがとうございました。」。他に宮城野区の龍田さんから時間外のお礼、宮城野区の中村さんから便利な土曜日の午後の診療について、泉区の都築さんから宮腰君の結婚のお祝いの手紙を頂きました。紙面の関係で御紹介できませんが、ありがとうございます。先月紹介した吸入器の袋を、今回もまた青葉区の鈴木さんと宮城野区の澤田さんから頂きました。大切に!!。

## お母さんクラブのお誘い

第2回のお母さんクラブは、6月18日(木)に開催されました。参加者は33人で、夏に流行する病気についてお話ししました。ヘルパンギーナなどの夏風邪だけでなく、O-157感染症を含め食中毒の話や予防法まで話が広がりました。

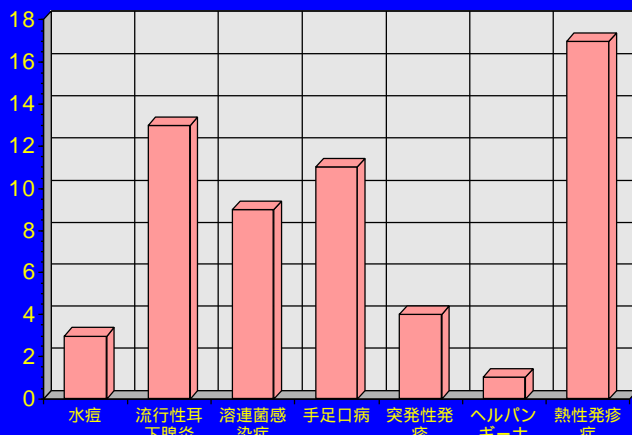
第3回は、次の日時・内容で開催します。

7月16日(木) 14:00 ~ 福沢市民センター(託児あり)

病気なんでも Q&A

今回はコンピュータを使って開催する予定です。当院の[ホームページ](#)に寄せられた医療相談を紹介し、それぞれについて回答・解説したいと思っています。皆さんが持っているような心配や悩みもきっとあるはずで、同時にホームページを紹介し、[インターネット](#)を少しのぞいてみましょう。

## 6月の感染症の集計



高熱が続いたり発疹が出たりする夏カゼや、手足口病、ヘルパンギーナも増加傾向があります。外国では手足口病のウイルスで、死亡例も出ています。夏カゼについては、以前の新聞を参考にして下さい。おたふくはいつまでたっても、減少傾向はありません。溶連菌感染症も多く見られています。発疹が出たら早めの受診を。

## 編集後記

このところ、寒暖の差があり体調を崩しやすくなっています。うちの猫も夏バテ気味です。今月も投書が多く、誌面が見にくくなっています。しかし投書は、評価のパロメーターと思っています。「来月は!」と、思いつつ、もう一頑張りですね、もうすぐ待ち遠しい、夏休み!!。

